

## 第4回ESD・社会科理論研究会概要報告

◇開催日時 平成29年1月9日（月・祝）15時～18時

◇会場 奈良教育大学ESDオフィス

◇参加者 河野（富雄第三）、島（郡山西）、新宮（平城）、中澤哲（平群北）、中澤（奈良教育大）

◇内容

第4章「初等教育の心理学」『学校と社会』ジョン・デューイ著、宮原誠一訳、岩波書店、1957年

担当：島先生

往時の心理学と現代心理学との違い

◇一つ目

往時の心理学 精神は個人的な独占的な所有物

現代心理学 社会的必要および社会的目的が精神を形成するにあたって最も有力な要因

これまでの教育

→教材は全然外部的に教師の側に置かれていた。社会生活と結びついていなかった。

教科の系列の中で、子どもにとっての必要性を考えずに指導している。

◇二つ目

往時の心理学 子どもは知識の容器

現代心理学 学習意欲こそが知識獲得の要点である

◇三つ目

精神は成長しつつあるものである。

これまでの学科は、学科の都合で系統づけられていた。子どもの精神の発達に即していなかった。

【初等教育における成長の三段階】

第一期（4～8歳）

教材は子ども自身の社会的環境から入ってくる生活の諸相から選ばれるべき。家庭生活、近隣の事物  
学び方は、社会的形式に近い活動を通して（模倣・遊戯など）

日常生活の体験をもちより、豊かにするだけでなく整序することで、知識を獲得する

第二期（8歳から12歳）自覚の拡大

永続的な結果に達するために適切に役立つ正当な諸々の手段・法則の認識

普遍的・一般的知識の獲得

目的に対する手段の意識的關係という統一原理

（教科のための勉強ではなく、面白いだけで何も学んでいない（活動あって学びなし）ではなく）

目的を第一に、それを達成するために教材・指導方法を考える

「読み・書き・算」の三科に関する主要な問題

・経験をつうじて獲得させる

・必要性のもとで書物に出合わせる

・学科の有機的結合による三科を学ぶ機会の

提供：総合的な学習の時間と言語活動の充実



次回第5回の担当は河野先生、2月8日（水）19時～ ESD研究室